

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人、母体施設の理念を受け、グループホーム独自の理念も掲げている。また、地域の中でそれまでの生活が継続できること地域の人との交流が入っている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念をみんなの見える所に掲げ、共有できるようにしている。引継ぎ等でも確認し、実現できるよう取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族へは入所時に説明し、居間や玄関などへも掲示していつでも見ることができるようになっている。地域の人へも運営推進会議や夏祭りなど様々な機会に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>町会へもセンターの代表者が参加し、地域の清掃活動へも参加している。ホームの前庭は、近所の散歩や自転車の練習、通学など日常的に使われており、気軽に声を掛け合っている。夏祭りなどでも町会や施設合同でもお互いに協力し合っている。担当職員は、キャラバンメイトになっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>実施する意義を理解し、評価を受けて、建物の改修や実習機会の拡大などへ取り組んでいる。</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>サービスの実際や評価への取り組みの報告話し合いを毎年実施している。会議での意見も取り入れて、改善した点などは、その後報告している。職員へも会議での話し合った内容を伝え、情報を共有化できるように会議録もファイルしている。</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて、担当者と機会を作っている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護事業や成年後見制度を利用している利用者もあり、協力している。今後も、活用できるよう支援していく。</p>	
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会(内部研修)の機会を作り、学んでいる。定期的に行い、防止に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動を少なくするよう、配慮している。代わる場合は、ダメージを少なくできるようにお別れ会を実施している。代わる職員についても、配慮している。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会や情報を共有できるようにしている。また、働きながらトレーニングできるよう、昼のミーティングを活用しながら理念や仕事の根拠などを説明しながら進めている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者と交流する機会を設けている。また、相互に訪問しあう機会も作っている。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ミーティング内での話し合いも行っている。また、グループの職員との交流会なども定期的に機会を設けている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>何回でも見学が可能なことを伝えており、聴く機会をつくっている。要望があれば何度でも説明を行っている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>要望の中から、見極めを行い、説明をして支援している。他のサービスが必要な場合は検討している。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご本人や家族からの情報収集を行い、職員で共有できるようにしている。馴染む事ができるように歓迎会を開いたり、グループワークなどの場面作りを通して馴染む事が出来るよう工夫している。共同作業なども取り入れている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>感情豊かな生活を念頭に、喜怒哀楽を共にしている。裁縫や畑仕事、日常の家事などを通して職員が利用者から学ぶ場面も多い。利用者からも「お互い様」と言う言葉も聞かれている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の情報を共有しあい、出来るところはお家族にも協力をお願いしている。外出や運営推進会議への参加など協力を得ている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に相談や情報交換を行っており、対応を統一、協力して支援している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や美容院・通院などでも、なじみ場所に行けるよう支援している。通院時などでも待合室で友人知人と挨拶や会話を交わしている。友人宅などへも送迎を支援している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	家事や昼食作りなどでも関わり合いができるような場面作りを心がけている。利用者同士の関係・距離感についても昼のミーティング時に話し合っており、必要と思われる場面では職員が介入・仲介している。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了しても、継続的な関わりを必要とする人には支援している。利用者同士の関係も断ち切らないよう、特養へのお見舞いなども利用者から希望があれば支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>茶話会や生活の中で意向を聴くよう努めている。ご家族へも本人はどのような要望を伝えているか尋ねるようにしている。困難な場合は、センター方式を活用しながら、本人本位に検討するように努めている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ミーティング・カンファレンス時に情報を出し合い、共有化するように努めている。サービスを利用する経緯やご家族がご本人にどのように説明しているか、受け止めているかを確認している。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>ミーティング・カンファレンス時に、現状と変化について話し合って情報を共有化している。センター方式にも一日の流れを記入し、全体像の把握に努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>意見やアイデアを反映できるよう、職員が発言できる場面を作る為、カンファレンスを2回実施。ご家族や本人の意向を聴き、作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間内でも、入院・退院など変化が生じた場合、新たに作成。新しく利用した場合は、情報収集をもとに1ヶ月のプランを作成し、入所後の状態に即したプランを新たに作成している。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録に毎日記録。医務の記録も一緒になっており、情報の共有や見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人の状態に合わせて支援している。車椅子の利用者で一般浴槽での入浴が不十分な場合は、デイの浴室も活用し対応している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>民生委員や消防・教育機関とも協力している。実習も受け入れている。地域の行事へも協力をしている。</p>		
38	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>現在、他のサービスを活用している人はいないが、意向や必要性があれば支援する。他のケアマネジャーや包括支援センターなどへも施設見学や運営推進会議などを通して話し合っている。</p>		
39	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>包括支援センターとは運営推進会議を通して話し合っている。地域への協働については、窓口のセンター長が行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用していたかかりつけ医に通院できるよう支援し、適切な医療を受ける事が出来るよう支援している。入所後も本人、ご家族の希望を聴き、希望する病院を受診している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要と思われる利用者へは神経科精神科の受診を支援している。本人を前に本人の状態の伝達が困難な場合は手紙を渡したりして、情報を伝えたり、相談している。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ほぼ毎日医務の記録を残している。また、併設のデイサービスの看護師の協力を得る事もある。夜間は待機看護師の協力を得ている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	環境の変化になれることが出来るよう、面会に行っている。また、早期に退院できるよう情報交換や相談し、本人の状態の把握に努めている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、重度化した場合について確認している。終末期のあり方についても同様。皆で情報が共有できるようにしている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族の意向を確認している。ホームからは本人やご家族に出来る事・出来ない事を説明し、選択してもらっている。また、医師とも急変時の対応を確認し、検討や準備をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事・おやつなど一緒に作っている。楽しみに繋がるように菜園で収穫した野菜も食卓に出している。準備や後片付けも一緒に行っている。メニューも相談した場合は、買出しも一緒に出かけたりしている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ホームで提供する菓子も利用者の好みに合わせるようにしている。個人で購入する場合も一人ひとりの好みや管理能力に合わせて支援している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりに合わせて支援している。排泄の失敗がある場合も、さり気なく支援している。誘導が必要な人へは、誘導も実施。清拭や陰部洗浄をし、不快感を軽減するよう配慮している。必要な方へは、下剤の調整も医師の指示の元実施。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ、毎日入浴は実施しているが、通院日や希望などに合わせて助言しながら、入浴の順番などを支援している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、睡眠状況を把握するようにしている。不眠時も訴えを傾聴したり、その人の過ごし方に合わせて支援している。日中の静養時間についても、必要な人へは支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	グループや個人での外出や散歩、入所前からの親しい人との交流なども支援している。個々の能力や生活歴に合わせて、生活の中での役割が出来てきている。菓子作りや畑仕事などでもそれぞれ楽しむ場面を作るよう配慮している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの能力に合わせて、財布を所持している。職員が預かっている場合も、支払いの場面を作るなど配慮している。以前に比べ、支払い時に自立できている。</p>		
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>希望があれば、散歩や買い物など日常的に外出している。</p>		
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>遠方へは、茶話会などを中心に要望を聴き外出する機会を作っている。昔行った思い出の場所なども、回想などから聴きだし、計画する事もある。家族へも本人の要望や状況などを情報提供しており、可能な限り支援している。</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>居間の電話を自由に使うことが出来ている。要望があれば、ダイヤルを回すなどの支援も行っている。手紙の代筆や投函なども行っており、自由なやり取りができています。</p>		
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>日中は施錠もしていない。面会時間も自由であり、仕事の後に訪れる家族もいる。駐車スペースもあるので、自由に訪れている。近所の場合は自転車や徒歩で訪れる事もある。また、親族が集まって訪れるなど賑やかに過ごしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての勉強会も実施。マニュアルも作成している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や非常口なども開錠している。テラスなども自由な生活スペースとなっている。屋上も日中は生活スペースとなっており、利用者の状態を確認しながら、鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながらも、体操や摂水、食事の提供、入浴などで所在・様子の確認をしている。職員の掌握場所を決めて安全に配慮している。夜間も定時や本人の状態に合わせて見守りを実施。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせて、危険を取り除くように配慮している。出来る事出来ない事を定期的を確認して、情報の共有化を図りながら、保管・管理している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬の見守りや医務の勉強会、消防訓練を行っている。ヒヤリハットも定期的に見直しており、事故防止に取り組んでいる。捜索マニュアルも作成している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会を実施。また、マニュアルも作成している。毎年ではないが、救急救命の講習会も行っている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を2ヶ月に1回のペースで実施。地域へは、回覧板や運営推進会議を通じて働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	受診報告や本人の近況を家族に説明し、対応についてもリスクを含めて説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化があった場合、記録・伝達している。介護職員と看護職員も情報を共有できるよう、記録を統一している。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用なども確認している。服薬チェックも実施。変更時は、期間を決めて状態観察記録も行っている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排便状況に応じて、摂水量や牛乳の提供など支援している。寒天も毎日提供している。働きかけが必要な方へは、運動や散歩なども支援している。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがいや義歯の洗浄、ホリデントの使用を支援している。口腔ケアの必要な方へは、職員が実施している。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的な献立は、栄養士がバランスを考えて作っている。量や油抜きなど必要な方へは、一日のバランスを考えて支援している。摂食状況の悪い方へは、補食やエンシュアの提供も行っている。スキムミルクやいりこだしも用意。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は、毎年支援している。感染症の勉強会やマニュアルもあり実行している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日ハイター消毒を実施。食材の温度管理も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は鍵は使用していない。誰でも安心して出入りしやすいよう、柵などもつけていない。近所の人たちが子どもの遊び場、自転車の練習場所などにしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者の作品や花を飾り、生活感や季節感がでるよう配慮している。ソファなどへも手作りのカバーを作成している。音や光についても、テレビのボリュームやカーテンの調整などで配慮している。トイレも2回以上清掃を実施し、臭いへも配慮している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂のソファや椅子の配置も配慮している。それぞれのお気に入りの場所があり、日中思い思いの時間を過ごしている。廊下へも休憩場所として、椅子を置いて居場所作りに配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れたものや好みの物を持ち込んでもらっている。ベッドや身の回りの品を本人に合わせて配置している。ソファやジュタンなども好みで持ち込んでいる。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>掃除の際の換気やストーブや冷房使用時の温度調整は、時間帯や状態に合わせてこまめに行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーに配慮している。手摺りやドアも使いやすいようにしている。利用者の声があり、トイレを使いやすいよう、扉の位置の改修なども行っている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>家族からの情報収集や職員間での情報の共有化を行い、出来る事出来ない事を把握するようにしている。混乱や失敗があった場合も、なぜなのか話し合い、場面や環境づくりを行っている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>屋上やテラスも生活空間に取り入れている。デイサービスとの交流もあり、デイへ日常的な行き来もある。デイの文庫を活用したり、浴室も借りる事がある。慰問や花火大会、夏祭りなどでは地域の人へ建物を開放している。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

車椅子を利用している方もいるが、散歩・外気浴などを積極的に行っている。散歩時、近所の方と挨拶を交わす事も多い。菜園も行っており、収穫した野菜を利用者家族へ提供できている。利用者の思い出の場所への外出や頭も体操にも力を入れて取り組んでいる。